

## シビル・ベテランズへのお誘い

## 1. 設立の経緯

土木学会関西支部では1990年度よりフォーラム シビルコスモス (FCC & FCCW) の活動を行ってきた。そこでは、21世紀に向かう土木界のあるべき姿を創造的に考えると共に、土木に関わる情報の受信と発信の場として社会との係わりを模索し、1996年度より組織を一新し新たな展開を目指している。

1995年度を最後にFCCW活動を引退した数名のメンバーにより、1996年4月にシビル・ベテランズ (Civil Veterans: CV) の活動が構想された。それから夏にかけて数回の打ち合わせにおいて、趣旨に賛同して頂けそうな方約30名をリストアップし、8月28日にその内10数名が初めて集まった。1996年度はほぼ1月半に1回の会合において、シビル・ベテランズの活動内容について討議を深めていった。その中で、ボランティアとしての活動も視野に入れるべきとのことで Civil Veterans & Volunteers: CV<sup>2</sup> として構想が発展したが、一般的には「シビル・ベテランズ」とし、その活動範囲を限定しないこととする。

## 2. 活動状況

1997年度になって、毎月1回に定例化して、まずテーマを選定し、それに沿った話題提供と討議を行っている。なお、これらの会合は午後6時より大阪ガス構エネルギー・文化研究所 (CEL) の会議室で行い、参加者は都合のつくメンバーが10数名である。

テーマ	話題提供者
0) 5月13日 國島正彦: 「公共工事システムの将来像」研究ノト・マ (学会誌 '97.5): 川谷充郎	
1) 6月10日 事業の提案理念 (何のための事業? 自己満足?)	: 中尾順二
2) 7月8日 事業の情報開示 (計画決定時になぜもめない?)	: 藤澤政夫
3) 10月14日 事業に関わる合意形成 (話し合いでまとまるの?)	: 小林郁雄
4) 11月11日 地方分権と都市計画 (予算はどうなってるの?)	: 正木啓子
5) 予定 事業実施の問題点	
6) # CV制度の情報発信 (他でも同じようなことを考えているかも)	
7) # CVとインターネット (こんなのやってまんねん)	

9月2日～3日 土木事業の現地視察: 土木事業が地域住民にどのように受け入れられているのか、そこでの問題の本質は何かを身近に知り、CV活動を考えるため、話題にのぼっている諫早湾干拓事業および雲仙普賢岳噴火災害復興事業の現地視察を実施した。

## 3. 土木学会との関係

前述の設立の経緯に記したように、土木学会関西支部での活動が元になっていること、および学会のような中立機関に依頼するのがよいとの考えにより、学会との関係を種々模索した。

1997年度土木学会本部の企画調整委員会に「国土防災の適正水準に関する検討特別小委員会」(委員長: 河田恵昭 京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・教授) が組織され、そのワーキンググループ (WG) の一つに「シビル・ベテランズの活用」(主査: 川谷充郎 大阪大学工学部土木工学科 助教授) が加えられた。当面、活動は1998年度までの2年とし、初年度の活動経費は企画調整委員会の中で手当され (実質、通信費・交通費程度?), 1998年度は特別小委員会として100万円の予算申請し、ほぼ認められる見通し。

「シビル・ベテランズの活用」WGの1997年度活動費調達として、学会本部の「学術文化事業」助成 (一般型) に申請し100万円を得ている。さらに、1998年度のため、「学術振興基金」に申請予定であるが、特別小委員会のWGとして常置委員会内の活動と認識されると、採択される可能性は低くなるとのこと。

## 4. 公開活動

1997年度の「学術文化事業」としてフォーラムを開催予定

年度内である必要はなく、1998年10月初めの土木学会全国大会の頃に神戸で開催?

シビル・ベテランズおよび一般市民対象 (現役土木家含む)。

土木学会全国大会の研究討論会 (1998年10月4日、日曜日)

国土防災の適正水準に関する検討特別小委員会より提案予定、シビル・ベテランズの活動も報告。

これは、学会員向け。